リハビリテーション医学

［講義］　第２学年　後期　必修　2単位

《履修上の留意事項》オムニバス授業で毎回の授業内、授業後に行うレポート課題により成績判定を行うため、欠席しないのは勿論のこと、毎回しっかり予習して授業に臨むこと。

《担当者名》○小川太郎　平島淑子　中川賀嗣　吉田晋 ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp　武田涼子　澤田篤史　佐々木祐二　大須田祐亮　多田菊代　飯田貴俊

【概　要】
リハビリテーション医学とはさまざまな病態、疾患、外傷などにより生じた機能障害をできる限り回復し、残存した障害を克服しながら社会復帰を進める医学である。そのため対象となる疾患も幅広く、病期も急性期から維持期、さらには病前の予防にまで及ぶ。
本講義では、リハビリテーションに関わる各職種の役割を理解し、リハビリテーションにおけるチーム医療のあり方を学ぶとともに、各種障害の捉え方と評価方法、介入方法などのリハビリテーションの実際等について、代表的疾患を通して学んでいく。

【学修目標】
【一般目標】
医学としてのリハビリテーションの適応範囲、それぞれの職種が果たすべき役割について理解し、チーム医療を担う医療人として必要な知識を身につける。
【行動目標】
1．リハビリテーション医学の概念、リハビリテーション診療の概略について説明できる。
2．代表的疾患のリハビリテーションについてその概要を説明できる。
3．各病期におけるリハビリテーションの目的、目標を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	リハビリテーション医学の概要	リハビリテーション医学・医療の意義、各病期、職種の役割について理解する	小川太郎
2	リハビリテーション診療	リハビリテーション医の役割と診断から処方、治療までの流れについて理解する	小川太郎
3	脳血管疾患のリハビリテーション	脳卒中や頭部外傷後のリハビリテーションについて理解する	小川太郎
4	新たなリハビリテーション手法	再生医療、リハビリテーションロボティクスといったリハビリテーションにおける近年のトピックスについて理解する	小川太郎
5	運動器疾患のリハビリテーション（上肢）	上肢のリハビリテーションについて理解する	平島淑子
6	運動器疾患のリハビリテーション（下肢）	下肢のリハビリテーションについて理解する	平島淑子
7	運動器疾患のリハビリテーション（脊椎）	脊椎のリハビリテーションについて理解する	平島淑子
8	神経筋疾患のリハビリテーション	パーキンソン病や脊髄小脳変性症、神経筋側索硬化症、ギランバレー症候群といった神経難病のリハビリテーションについて理解する	吉田晋
9	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーションについて理解する	佐々木祐二
10	切断のリハビリテーション	切断後のリハビリテーションについて理解する	武田涼子
11	小児疾患のリハビリテーション	脳性麻痺や発達障害などのリハビリテーションについて理解する	大須田祐亮
12	呼吸循環器疾患のリハビリテーション	心筋梗塞や狭心症、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸循環器疾患のリハビリテーションについて理解する	多田菊代
13	精神疾患のリハビリテーション	統合失調症やうつ病、高次脳機能障害などの神経・精神疾患に対するリハビリテーションについて理解する	中川賀嗣
14	摂食嚥下障害のリハビリテーション	摂食嚥下障害に対するリハビリテーションについて理解する	飯田貴俊

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15	がんのリハビリテーション	がんの周術期から緩和ケアにおけるリハビリテーションについて理解する	澤田篤史

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】
レポート課題　100%

【教科書】
日本リハビリテーション医学会　監修　「リハビリテーション医学・医療コアテキスト」　医学書院　2022年

【参考書】
安保雅博、上月正博　他　「最新リハビリテーション医学第3版」　医歯薬出版　2016年
千野直一　監修　「現代リハビリテーション医学第4版」　金原出版　2017年

【備考】
授業内容以外の問い合わせは吉田まで
ysdssm@hoku-iryo-u.ac.jp

公欠の場合でも課題提出は必要ですので、課題内容、提出方法については各授業担当教員に問い合わせてください。

【学修の準備】
本講義では、様々な疾患や基礎医学的知識を必要とするため、しっかりと予習して授業に臨むこと（2時間）、復習、レポート作成は教科書だけでなく、参考書や各領域の専門書も活用すること（2時間）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】
（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】
小川太郎（医師）、平島淑子（医師）、中川賀嗣（医師）
吉田晋（理学療法士）、武田涼子（理学療法士）、澤田篤史（理学療法士）、佐々木祐二（理学療法士）、
大須田祐亮（理学療法士）、多田菊代（理学療法士）
飯田貴俊（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】
それぞれ医師、歯科医師、理学療法士としての病院での臨床経験をもとに講義する。

【その他】
この科目は主要授業科目に設定している